



第719号
平成27年7月29日

陸上自衛隊
北部方面隊広報紙
発行：北部方面隊総監部広報室

総監要望事項
応 磨 頼
即 錬 信

北部方面隊
ホームページ
<http://www.mod.go.jp/gsd/nae/index.html>

陸上幕僚長 苗穂分屯地の現況を視察

方面隊は、7月7日、陸上幕僚長岩田陸将による苗穂分屯地の視察を受けた。

陸上幕僚長による苗穂分屯地の視察は北部方面隊創設以来初めてとなる。

苗穂分屯地は、札幌の中心から北東へ約3km豊平川支流(ナイボ)に所在し、旧陸軍の主要輸送手段であった軍馬の飼料を補給する(※糧秣本廠札幌派出所)の跡地に昭和25年10月に開設された。

なかでも開設時に建設された建物5棟が現存しており、その内、石造りの倉庫4棟は現在も補給倉庫として、旧司令部庁舎はコミュニケーションセンターとして使用されていることは分屯地の誇りでもある。

分屯地各部隊長の出迎を受け、陸上幕僚長は、コミュニケーションセンターにおいて状況報告を受けた後、隊内を巡視した。特に、分屯地が誇る石造り倉庫を往時のまま活用している補給倉庫の視察では、その堅牢性にいたく感心し、歴史的建造物としての価値を認識し、しっかりと管理するよう指導した。

また、生活隊舎の巡視において居室に整列した各隊員は、営内において仲良く快適に過ごしているか「週末はどのようなか」に過しているのかなど、一連の視察を終えた陸上幕僚長は、旧軍以来の補給の要衝であった苗穂地区において、補給整備の技術と精神を受け継ぎ、縁の下の力持ちとして活躍する苗穂分屯地の隊員を労い、引き続き任務遂行のために努力することを要望し分屯地を後にした。

※糧秣(りょうまつ) 兵員用の食料(糧)や軍馬用のまぐさ(秣)を表す用語



旧陸軍糧秣本廠司令部前において記念撮影



生活隊舎を視察し隊員に質問する陸上幕僚長



輸送艦「しもきた」に90式戦車を搭載

第5旅団は、7月9日、第4普通科連隊長を担任官として、十勝管内大樹町の浜大樹揚陸訓練場において、揚陸訓練を実施した。

第5旅団が実施する揚陸訓練は、平成25年度から開始され、今年度で3回目となる。

国内唯一の揚陸訓練場で陸・海協同要領を演練

第5旅団が揚陸訓練を実施

訓練は、陸上部隊として第5旅団隷下の第4普通科連隊長を担任官として、十勝管内大樹町の浜大樹揚陸訓練場において、揚陸訓練を実施した。

訓練は、陸上部隊として第5旅団隷下の第4普通科連隊長を担任官として、十勝管内大樹町の浜大樹揚陸訓練場において、揚陸訓練を実施した。

訓練は、陸上部隊として第5旅団隷下の第4普通科連隊長を担任官として、十勝管内大樹町の浜大樹揚陸訓練場において、揚陸訓練を実施した。

訓練は、陸上部隊として第5旅団隷下の第4普通科連隊長を担任官として、十勝管内大樹町の浜大樹揚陸訓練場において、揚陸訓練を実施した。



LCA Cによる揚陸後速やかに警戒にあたる隊員

平成27年度陸幕課目指定演習 HTC事前検証 北海道の主要演習場の道場化を推進



評価支援要領を確認する陸上幕僚長

方面隊は、第11旅団長を事前検証演習担任官として、6月29日から7月6日までの間、北海道大演習場(島松・恵庭地区)において、27年度陸幕課目指定演習(HTC事前検証)を行った。

HTCとは(Hokkaido Training and Center)の頭文字を標記したもので、陸上自衛隊で最多の大規模演習場を有する北海道の良好な訓練環境の中、道内・外の部隊が実動演習を行うために演習場及び実動訓練を客観的に評価するための機能を整備する等北海道の訓練基盤を充実させる構想であり、平成32年度本格運用開始を目的に、昨年度から検証を行っている。

今回の事前検証は、パトラー(交戦訓練装置)等を活用した実動訓練とICE(指揮所訓練統制支援システム)を活用した仮想空間での行動を連携ツールにより融合させ、HTCにおける評価支援要領とパトラー、ICEの両システムを接続し、評価支援要領に基づいて検証するとともに、本検証の場を活用し、第11旅団長を統制官として、第18普通科連隊長、第11飛行隊の訓練検閲を行った。

実動訓練は、受閲部隊である第18普通科連隊長と旅団主力で編成した防衛隊に対して、第10普通科連隊長の1個中隊に2個戦車中隊を加えた攻撃部隊が対向して戦闘を繰り広げた。

直轄部隊の現況を把握し、企図の徹底を図る

北部方面総監 丘珠駐屯地初度視察

北部方面総監岡部陸将は、7月10日、丘珠駐屯地に対する初度視察を行った。

丘珠駐屯地は、旧陸軍飛行場跡地に開設し、旧陸軍航空の伝統を受け継ぐ、北部方面隊の航空科部隊のメッカである。その所在部隊は、方面直轄部隊である北部方面航空隊のほか、第7師団隷下の第7飛行隊、第11旅団隷下の第11飛行隊及びそれを支える駐屯地業務隊である。

航空偵察、空中機動、ヘリコプター火力戦闘のほか、飛行場における航空管制、航空気象、運航支援等の任務を行う方面航空隊と駐屯地業務隊の現況を把握し、総監企図の徹底を図った。

訓示で総監は、昨今の国内外情勢、防衛省・自衛隊に対する国民の期待を踏まえ、北部方面隊のなすべきことを述べ、即ち「錬磨」「信頼」の要望事項を徹底した。航空隊には、方面隊の航空科部隊の骨幹であり、方面隊が広大な北海道で防衛



備じよう

警備 災害派遣等に即応し任務を完遂するための重要な位置づけにある部隊であることを踏まえ隊長を核として更なる練度の向上を要望した。さらに「高い技量に裏づけされた強いプロ意識により、24時間態勢で整齊と実施される緊急患者空輸は、全道民の安心・安定に貢献し、自衛隊の信頼獲得に寄与している」と緊急空輸の重要性と苦労について言及し、隊員一人一人の弛まぬ錬磨、相互の信頼、航空安全への強い意識を称えた。



患者空輸資材を確認する総監



第8期一般陸曹候補生

平成27年度自衛官候補生

3ヶ月の前期教育を終え

各部隊へ巣立つ

方面隊では、6月下旬新隊員前期教育を担当した各部隊において、第8期一般陸曹候補生及び平成27年度自衛官候補生の修了式を行った。

4月上旬に各駐屯地の門をくぐった新隊員は、多くの仲間と出会い、互いに励まし合い、教官・助教の厳しくも愛情のある指導を受け、逞しく成長した。

修了式では、家族や知人、多数の来賓、入隊へと導いた各地方協力本部の代表の見守る中、入隊に感謝し、今後の成長を期すなどの感

想を口に、新隊員の代表は、「ここまで頑張った家族等はその姿を頼もしく見守っていた。家族との祝賀会食においては、教育間を振り返る映像の放映、自らの制服姿を撮影した写真の父兄への贈呈、徒歩による観閲行進など各部隊が趣向を凝らした企画を披露した。

出席した家族らは「学生の時とは見違えるほど成長した。ここまで子供を成長させてくれた皆様に感謝します」などの感

得した新隊員は、各職種が決定し、それぞれの職種部隊の教育隊に配置され、約3カ月の後期教育が開始される。



修了式前区隊最後の円陣を組む自衛官候補生 (第120教育大隊：女子)



修了式に臨む第8期一般陸曹候補生 (第120教育大隊)



修了式において任命書を授与した自衛官候補生 (第13施設隊)



一糸乱れぬ敬礼を行う自衛官候補生 (第25普通科連隊)

職種隊員としての第一歩を踏み出す 各部隊で後期教育開始!!

7月に入ると約3カ月の前期教育を終了した約千四百名の一般陸曹候補生と自衛官候補生が全国各地からこの北海道に集まり、後期教育が開始された。

陸上自衛隊の新隊員後期教育は、普通科、特科、機甲科等の職種部隊に配置され、今後、部隊において勤務する上で必要な知識及び技能を修得するため約3カ月の間、行われる。

教育を受け持つ各部隊は、10年後、20年後の北部方面隊を支える人材として職種のプロとして、部隊の核となる隊員の育成という重責を自覚し、情熱と愛情をもって教育に取り組んでいる。

また、新隊員は、前期教育で、基本教練、野外勤務、小火器射撃など陸上自衛官としての基本的な知識・技能を修得しているが、特科部隊における発射機等の取り扱いなど、それぞれの職種部隊の装備や特性に応じた知識・技能の習得に奮闘中である。



機甲科隊員への道を歩み始めた新隊員 (第71戦車連隊)



職種カラーのマフラーを装着し 宣誓文を読み上げる新隊員 (第25普通科連隊)



有線の縛着要領を修得中の新隊員 (北部方面通信群)



発射機の操作を修得中の新隊員 (第1地对艦ミサイル連隊)

北の駐屯地 その歩み

第19回 美唄駐屯地



南美唄市街地を行進する移駐部隊

美唄駐屯地は、札幌市と旭川市のほぼ中間に位置する人口約2万4千人の美唄市に所在します。

日本一の直線道路の「国道12号線」、道内でも有名な「美唄焼」や郷土料理の「とらめし」、ラムサール条約登録湿地の「宮島沼」やソメイヨシノの群生北限の「東明（とうめい）公園」、芸術空間「アルテピアッツァ美唄」などを有する見どころ満載な街です。

昭和20年代後半、駐屯地誘致の機運があったが、地域住民や炭鉱労働者の反対により、市として誘致の一本化ができませんでした。

昭和33年、市内各所にある「自衛隊歓迎」の看板や日の丸の旗を振る市民の中、基幹部隊となる第126特科大隊が東千歳駐屯地から移駐をしたのです。



現在の駐屯地正門

北部方面隊史

我らここにのみて

國安らかなり

第1回

本号から、15回の予定で終戦直後から北部方面隊の誕生、現在に至るまでの方面隊の歴史の概要を連載します。

終戦後の世界情勢その1（冷戦の始まり）

昭和20年8月「終戦に関する詔書」が発せられ、長きにわたる太平洋（大東亜）戦争の幕が閉じられた。敗戦国となった我が国は、今後の行く末を戦勝国である連合国に委ねることとなった。9月2日、東京湾に停泊中の戦艦ミズーリ号艦上での降伏文書の調印が行われ、我が国への連合国軍の進駐が始まり、ポツダム宣言に基づく占領管理の諸政策が厳格に実施されることとなった。その占領管理は、政治、経済

社会、文化等あらゆる面において我が国の根本的な改革を行うものであった。初期の対日管理政策は、戦時中に検討された連合国による日本本土の分割直接統治の考えであったが、最終的に日本政府を通じて間接統治を採用した。そして、連合国を代表し「連合国軍総司令部」が日本国の占領と管理を行う最高執行機関となり、最高責任者であるダグラス・マッカーサー元帥は占領政策

に際し、大きな権限を与えられた。その後の管理政策は、国際情勢の変化と国内の事情に応じ、次第に緩和・修正されていくこととなり、マッカーサー元帥の言動はその後の日本国の動向を大きく左右することとなる。

戦後の疲弊と混乱の内にポーランドをはじめ東欧諸国をその勢力下に治め、昭和22年3月に下りたドイトツ・オーストリア平和条約問題を討議するモスクワ外相会議の11月のロンドン4カ国外相会議を決定に導いた。昭和23年6月のベルリン封鎖の強行は、最悪の事態の発生を予感させた。このことは、西欧諸国との対立の激化と西欧諸国による軍事同盟結成の足掛かりとなる。

人生に潤いを与える言葉

『菜根譚』の語る人生訓は、この世のあつて、身体は俗界にあつても心だけは浮世を超越する心身の修行こそ処世の要であることというのです。

世尊は如何に発付するや、「在世出世」と、欲に従（したが）うも是れ苦、欲を絶つもまた是れ苦なり、吾が情（せいの）善く自ら修持するに聽（まか）す。

（『菜根譚』後集・79）

即ち、執算はどのように話されたのでしょうか。「この身はこの世にあつても、心だけは浮世を超越すべきである」と。然し、物欲に従つて世俗にあるのも苦しみであるが、そうかといって物欲を絶つて世俗を超越することも苦しみである。そこで、わたし達は各自、心身の修養を怠らないことこそが、この世を生きるうえで肝要なことである、と。

この世「在世出世」即ち、「世間にあつて出世間であれ」という妙法は、あたかも、「火に焼かれて焼（や）けず、火に背いて凍（こ）えず」の如くに上手に火を利用して行くように、欲望の修道こそ処世の道ではないのでしょうか。

心の健康相談 メンタルヘルス・カウンセラー 根本和雄

特に、大戦末期からお互い不信感を募らせていたアメリカ合衆国（以降「米国」と記述）とソビエト社会主義共和国連邦（以降「ソ連」と記述）の二大國が対立の中心となり、米国を中心とする西欧諸国とソ連を中心とする東欧諸国は、東西の両陣営に大きく色分けされ、国際連合の舞台等において激しく対抗していた。平成元年の冷戦崩壊まで約44年間この状態が続くことになる。

この頃の米国は、昭和22年6月からの「欧州全体の復興計画の援助」の方針の中、西欧諸国との連携を強化するとともに中南米20カ国と相互援助条約締結する等、軍事強化を図っていた。その結果、昭和24年8月、米国を中心とした西欧12カ国（当時）による北大西洋条約機構（NATO）が成立した。

オピニオン

第6期方面隊オピニオンリーダー 村松 時雄

オピニオンリーダーの任に就いて1年が経ちました。これまで音楽隊を通じての限られた面しか見ることができませんでしたが、方面総監のお話を聞いたり、色々な行事への参加や訓練を研修して、多面的に内側から知ることができました。

どの社会もプロとして成り得るためには専門的な分野を研究し尽くしているのですが、特に自衛隊は我が国を守るためのプロ集団だということを実感しました。方面音楽隊の室内楽定期演奏会を拝聴した時に、当時の総監が「これは良い訓練になる」とおっしゃっているのを聞き、何事も訓練なんだという驚きと自衛隊の本質を見たような気がして頭が下る思いでした。

日本を取り巻く厳しい情勢等、これまでに増して自衛隊に対する国民の期待が高まり広範多岐に渡る役割を求められることも多くなるかも知れません。

私は、自衛隊の皆さんが有事など実際に活躍される機会がおとずれることは望んでいません。自衛隊の皆さんが活躍する場面が来ることなく、できるだけ世界が平和で穏やかであることを希望するばかりです。

ただ、この国にあってはならない方が一が起きた時のために、隊員の方々には健康に留意され、日々訓練に励んでいただきたいと思います。

【元札幌交響楽団員 音楽家】

「第54回知床開き」で自衛隊をPR！
～地域に密着したイベント広報を実施～

帯広地本



アンケートに記入する募集対象者

自衛隊帯広地方協力本部は、6月20日及び21日の2日間、羅臼町羅臼漁港で開催された「第54回知床開き」の会場に「自衛隊PRコーナー」を開設し、多くの来場者に対して一般広報を実施しました。このイベントでは、羅臼町の海産物即売会、有名歌手の歌謡ショーなど多彩な催しが開催されました。自衛隊PRコーナーでは、第27普通科連隊と協力し、各種イベントのチラシ、パンフレット及びポケットティッシュなどを配布し来場された地域の方々に対し自衛隊のPRを行いました。また、装備品展示コーナーでは、軽装甲機動車等の展示・説明を行い、子供達から「かっこいい！」など歓喜の声が聞こえ、自衛隊の主な活動概要について幅広くPRを行いました。自衛隊帯広地方協力本部は、これからも積極的に地域のイベント等に参加し地域の皆様に自衛隊活動に対する理解の深化を図っていきます。

赤れんがテラス前で募集広報実施！！
荒天に負けずPR

札幌地本



アンケートを記入する学生

自衛隊札幌地方協力本部は、7月1日、第52普通科連隊及び北部方面音楽隊の支援を受け、札幌市北3条広場（愛称：赤ブラ広場）イベントスペースにおいて「募集広報イベント」として野外演奏会及び装備品展示を実施しました。赤れんがテラス前にある同イベントスペースは、近傍に札幌駅や北海道庁等の主要施設が建ち並び、多くの通行人が利用する場所で、当日はあいにくの悪天候にもかかわらず約500人が来場し、展示した車両を興味深く見学し、野外演奏に聞き入っていました。自衛官採用制度説明会ブースにおいては、自衛隊の概要や魅力、募集種目等を説明し、説明を受けた来場者は「将来の進路の参考にしたいと思います」と感想を述べていました。

「おしゃまんべ毛がにまつり」
における市街地広報

函館地本



広報ブースを取り囲む人々

自衛隊函館地方協力本部は、6月28日、長万部町ふれあい公園で開催された毛がにまつりにおいて、市街地広報を実施しました。当日は、あいにくの小雨模様でしたが、毛がにの格安販売、各種物産販売のほか目玉であるカニの早食い大会、大学生による「よさこい」の演奏、歌謡ショーなど多彩な催しが行われ、自衛官募集の広報ブースにも各種パンフレットなどを求める家族連れの子ビッコや学生が訪れ、展示の軽装甲機動車と記念撮影をするなど相変わらず人気を集めていました。また、地元の高校生は「2年生ですが自衛隊も選択肢の一つです」と募集資料を求めるとともに、軽装甲機動車等を熱心に見学していました。広報ブースには、長万部町長をはじめ募集相談員や協力者が激励に訪れ盛り上げて頂くとともに、多くの地域の方と触れ合い、今後の自衛官募集にさらなる弾みをつけることが出来ました。

うりゅう暑寒フェスタを活用した広報活動
～第2特科連隊と団結した広報大盛況～

旭川地本



来場者に大人気だった装備品展示

自衛隊旭川地方協力本部は、6月21日、雨竜町で実施された「うりゅう暑寒フェスタ」に第2特科連隊と合同で広報ブースを開設して来場者に対する広報を実施しました。広報ブースでは、第2特科連隊の96式装輪装甲車、82式指揮通信車、人命救助セット等の装備品展示を行い、自衛隊の広報パンフレット、風船、装備品のペーパークラフト・シール等を詰め合わせたセットを配布し、来場した子供連れのご家族には大変好評でした。特に、装備品に乗車しての写真撮影は、小学生や小さな子供を連れてご家族に大変人気があり、少し大きめの戦車帽をかぶった可愛い勇士がとても印象的でした。また、遠方から帰郷していた来場者の方もおり、来場者からは「毎年、楽しみにしています。頑張ってください」との声も頂きました。自衛隊旭川地方協力本部は、これからも様々な場を活用した広報を実施し、多くの志願者の獲得及び自衛隊に対する理解の向上を図っていきます。

災害から命を守る 防災セミナー 8月28日(金) 13:10～17:00 入場無料

各地方協力本部募集等広報情報

8月・9月

札幌地方協力本部管内

Table with 3 columns: 開催日, 行事名, 場所. Includes events like 札幌ご当地キャラまつり 2015 and 小樽2nd FESTA-2015.

旭川地方協力本部管内

Table with 3 columns: 開催日, 行事名, 場所. Includes events like 写真展示会 and かぼちゃ祭り.

函館地方協力本部管内

Table with 3 columns: 開催日, 行事名, 場所. Includes events like 奥尻港における艦艇広報 and さわらぶるさとまつり.

帯広地方協力本部管内

Table with 3 columns: 開催日, 行事名, 場所. Includes events like たぶん日本で一番早い新そば祭り&第9回摩周湖農業祭 and 第46回別海町産業祭.

*行事は都合により延期または中止される場合があります

本年も早や半年が過ぎ、7月となりました。北海道の夏は過ごしやす... 編集後記